

桜工

2012

東日本大震災復興・支援号



目次

校友会新・旧会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
 就任挨拶 無縁社会ではなかった「早川 清一」
 退任挨拶 学部と校友の絆として「馬場 邦明」
 学部長挨拶
 大震災復興支援と安全な校舎の構築にむけて「滝戸 俊夫」・・・・・・3
 特集：「東日本大震災復興・支援」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 竹内 重徳(岩手)／深松 努(宮城)／渡辺 祥平(茨城)／
 古谷 重男(福島)／山田 元郎(宮城)／
 ボランティア活動 (卒業生)：梅田 綾／新井 ともはる／
 ボランティア活動 (学生)：山本 祐太／大里 恵美子／
 大網 桂太
 社長で頑張る・語る校友・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
 社長に聞く「樋口 知以」／これからの技術者「松本 寛」
 名人・達人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
 航続距離世界一のEV開発「館内 端」／
 今を生きる「田中 耕太郎」
 理工学部・校友会NEWS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
 平成23年度理工学部校友会奨学生証書授与式
 工科系校友連絡会、工科系校友会支部長会開催
 理工学部・理工学部校友会連絡会開催
 理工学部・理工学部校友会・顧問相談役会合同懇親会開催
 学部への教育支援／再び学ぼう(社会人に開かれた大学)／
 駿博会へのお誘い／被災学生へのお見舞い贈呈／
 各部会講演会活動報告
 学会・協会賞受賞者 - 研究の楽しさー・・・・・・・・・・・・・・16
 椎名 英三／高藤 美泉／由井 恵子
 学術賞および学会・協会賞受賞者・・・・・・・・・・・・・・17
 入試・進路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
 部会だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
 支部一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
 支部だより／事務局だより(事務報告・収支報告等・会費納入者名簿)
 平成23年度第二十三回「桜工賞」・・・・・・・・・・・・・・36
 海外で活躍する校友・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
 手作業・手造り感覚 「坂本 知美」
 イランでの3年間の苦勞と喜び「芦野 誠」
 就職支援サイト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
 精密機械工学科創設50周年を祝って・・・・・・・・・・・・・・40

就任挨拶 無縁社会では なかった



会長 早川 清一
(電気工学科：S42年卒)

平成23年6月の理工学部校友会総会で馬場前会長の後を引き継ぎ、第24代会長を拝命いたしました。

平成23年はわが国にとって、忘れることの出来ない年になりました。3月11日の東日本大震災とそれに続く福島原発の事故で、多くの方々が家族を失い、家や働く場所を失いました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆さまには、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を願っております。

東日本大震災以来「絆」という言葉がいろいろな場面で使われました。家族の絆、地域の絆、職場の絆など、失われたと思われていた日本人の心が、失われていなかったことが確認できました。東日本大震災前は「無縁社会」などという造語が囁かれていました。確かに都会の生活では一言も喋ることなく一日を過ごすことができます。コンビニで、スーパーで、棚から物を取ってレジに差し出せば、会話を必要とせず買い物ができます。隣の席の人にメールで要件を伝える若者達を見ると、これからの日本はどうなってしまうのかと不安になっていました。しかし震災の瓦礫の片付けや溝さらいなど、ボランティアとして汗を流す若者達の報道を見て、無縁社会は一部都会の若者の現象であったことに安堵感を覚えました。

理工学部校友会では被災地域の支部に対し義援金をお渡ししました。そして実家が罹災した学生さんには、お見舞いの気持ちとして図書カードを贈らせていただきました。

校友会の重要な仕事の一つは入口（志願者増）出口（就職支援）対策だと思います。なかでも長引く不況のなか、出口対策は最重要課題と言っても過言ではありません。

馬場前会長の時に立ち上げた理工系三学部共同運用の就職支援サイトの利用拡大を進めていきたいと考えています。また更なる発展系として、求職者を登録する仕掛けの開発を考えています。求職者の経験や資格を匿名で登録し、求人企業から条件に合う人を探してもらう仕掛けです。

最後に、任期3年の間、校友会の絆、母校との絆を強めるために精一杯努力する所存です。ご支援ならびにご指導のほど、よろしく申し上げます。

退任挨拶 学部と校友の 絆として



前会長 馬場 邦明
(建築学科：S40年卒)

平成23年6月の理工学部校友会総会で会長を退任し、後任会長には電気工学科出身の早川清一氏が就任致しました。宜しく御願い申し上げます。

会長職時には、役員の方々をはじめ、学部の先生方そして会員の皆様の御協力により無事務める事が出来、感謝申し上げます。

在任中、理工学部創設90周年を迎え、記念事業として平成23年4月、ノーベル物理学者の益川敏英教授によるご講演を頂きました。「苦しい状況でも自分の目標を見失うことなく、常に高いところに持ち続けて、実験など実作業は地道に積み重ねる努力が重要です。」と熱く語られた事が印象に残っています。10月にはホームカミングデーを開催し、学部の先生方と卒業された多くの方々が一堂に会する集いは産学一体になった瞬間を感じることができました。

このように、私たち校友会は、先生方と学生そして校友会員が三位一体となって発展して行く事が大切である事を実感致しました。

戦後の国作りから発展した日本社会はバブル経済の時代とその後のデフレの時代を経験して21世紀を迎えました。新しい国のかたちの基盤となる政治・経済・社会が出来、急速な少子高齢化やグローバル化へ向けて体制を整えている時、リーマンショック・サブプライムローン等の外的ショック、加えて未曾有と言われる東日本大震災・福島原発事故は日本人の協調精神は高めたものの経済的・精神的な打撃という国内事情を抱えることになってしまいました。

一方国外においては、新興国の工業発展は著しく、単なるハード機器の開発では、コスト面、性能面で優位差を付けるのは困難で、日本は内外ともに課題を抱えております。今後、日本が発展するためには、単なるハードの生産は、新興国に任せ、優れたソフトやメンテナンスなどを組み込んだ総合運用管理システムによる、「技術工業立国」を実現することが大切です。

困難の中にある日本に希望と勇気を与えるために、今こそ、我が日本大学理工学部校友会は、会員相互の力を結集して時代の流れをしっかりと捉えて向学精神を発揮される事を望みます。

最後に任期中の3年間、全国校友会員のご支援に対し衷心より感謝申し上げ、退任の御挨拶と致します。

—大震災復興支援と安全な校舎の構築にむけて—



理工学部長 滝戸 俊夫
(工業化学科：S45年卒)

日本における観測史上最大のマグニチュード 9.0を記録し東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした、東日本大震災から瞬く間に1年の月日が過ぎ去りました。

地震にともなう大津波によって一瞬の間に命を落とされ、また行方不明となった方々は約2万人を数えます。さらに震災に伴う福島第一原子力発電所の放射性物質の漏出による被災者も数10万人規模に上っています。改めまして被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、無念にも命を落とされた方々のご冥福をお祈りし、ご家族の方々に心より哀悼の意を表します。

平成23年3月11日、駿河台校舎9号館4階の執務室での来訪者との打合せが一段落した時、突然、横揺れが始まったのです。揺れは一気に激しくなり事務机につかまりながら体を支えなければならないほどで、その激しさに恐怖感を覚えました。揺れが収まるのを待って外部へ飛び出してみると、隣接地に建設中の高層ビルの屋上のクレーンが今にも落下しそうに大きく回転している光景に唖然となりました。その後も余震が続く混乱した状況でしたが、役職教職員で緊急対策会議を開き、学生の安否や被害状況の確認を指示し、調査したところ、窓ガラス破損、壁の亀裂、剥離、つり天井の落下、つり電燈の落下などが一部ありましたが、幸いなことに両キャンパスとも登校している学生及び教職員にけが人はなく、倒壊校舎も被害もなしの報を受け一安心しました。しかし、翌日に控えた大学院入学試験の実施の可否判断、帰宅不能の学生や教職員そして一般人の収容、非常食・非常飲料水の配布と目まぐるしい状況だったことが今になっても忘れられません。その間に刻々と

テレビ報道で明らかにされる被害の大きさはまさに震天動地そのものでした。

計り知れない自然の破壊力の前に、高度に発達した科学技術も如何に非力であるかを、まざまざと見せつけられたのが今回の大震災です。多くの方々が、「今回の震災を、どう捉え、今何をなすべきか」を真剣に考え、行動してきたことと思います。理工学部では、震災による塗炭の苦しみからの脱却もまた、科学と技術を柱に据えて進めるしかないことを改めて自覚しました。被災された方々が、この災難を乗り越え、新しい歩みを始めるための支援として何ができるのかについて討議を重ね、理工学部90年の歴史の中で培ってきた、多くの研究成果を基軸として多年度継続型の「東日本復興支援研究プロジェクト」を立ち上げました。そして6月にはキックオフシンポジウムを開催し、11月には東日本復興支援研究プロジェクト講演会を実施して、技術面から復興支援を実施しています。

さらに教育研究の拠点である両キャンパスの校舎の安全性の確保は最優先課題であり、すでに全校舎の耐震診断および研究室内の什器類の固定を完了させました。耐震診断の結果、補修補強が必要と判断された校舎は工事が実行されています。また学部長就任時より取組んできた駿河台キャンパス新校舎の建設も法人本部の了解をいただきました。具体的には日本大学法科大学院の本部隣接地への移転が決定したことから、その跡地を一時的な代替え地として使用しつつ理工学部新校舎を建設するものです。現在、新校舎建設実行委員会を立ち上げ急ピッチで建設に向けて詳細な計画段階に入っています。新校舎は駿河台校舎の9号館、6号館を統合した高層建築となる予定です。

詳しくは、「日本大学理工学部ホームページ」をご覧ください。

<http://www-formal.cst.nihon-u.ac.jp/>

(訂正) <http://www.cst.nihon-u.ac.jp/>

精密機械工学科は、日本経済高度成長期の昭和 36 年に理工学部設立され、平成 23 年度に創設 50 周年を迎えました。本学科設立当時は、習志野市泉町津田沼校舎（現生産工学部津田沼キャンパス）で 64 名の 1 期生が同年 7 月 9 日に入学し、その後昭和 40 年から現在の理工学部船橋校舎が学科の拠点となっています。精密機械工学科設立当時の、初代教室主任木村秀政教授により「電気工学的素養のある機械技術者」の育成を目標に「基礎力学系、電気工学系を根底として、精密工作系、計測工学系、自動制御系の 3 系列および実験実習」に重点を置いて設立されました。そして、現在の精密機械工学科もこの設立当初の精神を受け継いでいます。精密機械工学科の歴代の先生方には、いつも熱意あふれる教育ならびに先進的な研究により、学会・産業界、ならびに当学科を支えていただき、精密機械工学科・専攻からは多くの優秀な卒業生（6,432 名）ならびに修了生（498 名）が巣立っています。

50 周年をお祝いする記念式典・祝賀会は精密機械部会の支援のもと、来賓に滝戸学部長、早川理工学部校友会会長、斉藤事務局長、各学科教室主任、校友会の各部会長を迎え、平成 23 年 9 月 17 日（土）にアルカディア市谷にて執り行われました。一期生から近年に至るまで幅広い年代の精密機械部会校友が駆けつけ、270 名を超える参加者がありました。記念式典後の祝賀会では、当時の思い出話等で歓談もたいへん弾み、旧交を温めるとともに幅広い年代間の交流の場となり、和やかな雰囲気のもと盛会裏に終了することが出来ました。来賓の方から本部会がうらやましいという声が聞こえる程の会でした。



記念式典開催に先立ち、精密機械部会の補助のもと、学科において 50 周年記念誌が作成され、記念式典・祝賀会当日に記念品として配布されました。この記念誌は 50 名を超える精密機械部会校友による寄稿、教員・元教員による寄稿や 50 年間の学科の歩みを纏めた年史と当時を偲ばせる写真等が収録されており、思い出深いものとなっております。さらに歴代部会長からの進言や校友と在學生との座談会も収録され、これからの学科興盛を見据えたものに仕上がっております。

本記念事業に伴い、精密機械部会では校友の名簿整備を実施しました。校友も若い世代ほど住所等の変更頻度が高く、普段は多忙な日々を過ごす中で変更の届出も難しいものですが、あらかじめ郵送による住所等の調査を実施したことで、貴重な部会名簿のバージョンアップを実施することが出来ました。なお、この記念すべき 50 周年を周知し日本大学・学科により親しみを持ってもらえるよう、精密機械部会より祝賀会来場者と 700 名を超える精密機械工学科・専攻在校生全員に、記念品として学科ロゴ入りトートバッグを贈呈しました。

50 周年記念行事への理工学部長、理工学部校友会会長を初めとするご来賓や卒業生の皆様からのお祝い、ご支援を頂きましたことに感謝しますとともに、今日まで精密機械工学科を維持してこられたのも、ひとえに学科の先生方、諸先輩ならびに卒業生の皆様の尽力のためものと、深く感謝申し上げる次第です。

編集後記

昨年は、地震による津波、豪雨による水害など自然による超大災害が有りました。そこで「東日本大災害復興・支援」という事で 3 年間にわたる特集と致しました。その第一弾として、被災地で活躍している校友や学生の方々からの貴重な体験の寄稿で編集しました。次に、世界的な経済の混乱の中、さらに、グローバル時代の中で少しでも元気を取り戻し、また学生諸君へのエールとして将来の進路・就職活動に生かしていただける事を願って、「社長で頑張る・語る校友」「名人・達人」「海外で活躍する校友」の欄を設け、校友からの寄稿による編集でスタートしました。

(会誌副委員長 角 耀)

会誌委員 (◎委員長 ○副委員長)

◎篠沢 達也 ○岩井 茂雄 ○角 耀 川村 昇進 相原 敏弘 山崎 栄介 吉田 幸司 冨永 茂
夏見 直之 小嶋 芳行 仲 滋文 高橋 俊一 秋元 英治 居駒 知樹 安倍 明雄 今池 健

- 住所表示・勤務先・TEL 番号等の変更は事務局までご連絡下さい。
- クラス会等に「桜工」をお送りします。(実費・送料が必要となります。)
- クラス会の様子を桜工「クラス会だより」掲載希望の場合は、会名・卒年・学科・開催日時・場所・参加人数等をお知らせ下さい。

* 各詳細・問い合わせ等は理工学部事務局までご連絡下さい。

〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台 1-8-14
日本大学理工学部に 5 号館 2 階 525 号室
日本大学理工学部校友会事務局
TEL : 03-3259-0650
FAX : 03-3293-1370 (江口・田中)
ホームページアドレス
<http://www.koyukai-cst-nu.jp/>
メールアドレス
alumni@koyukai-cst-nu.jp

平成24年度通常総会開催予定

日時：平成24年6月22日(金)
会場：東京ガーデンパレス

平成24年3月25日発行

日本大学理工学部校友会

(日本大学工科大学校友会)



編集・発行者 篠沢 達也
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台 1-8-14
電話 03-3259-0650
FAX 03-3293-1370
印刷所 株式会社 トーコー印刷